

「広いと、自由な心だ。家から駅前の商店街までに、好きな道がある。バスも通らぬ細い通りなのだが、地図の上から、びしゅーっと定規で線をひいたみたいなきろく

ではない道を選ぶ運転手さんだった。堤防の坂を越えるコースだ。わたしの高校時代の通学路でもある。雨の日も風の日も、友達と自転車を通った道。冬。てお

育休 金銭面で支援

育児休業給付給付率が向上



働く人の子育てを支える制度の一つに、雇用保険から受け取れる「育児休業給付」がある。雇用保険に加入し、1歳未満の子どもを育てるために育児休業を取る人が対象になる。

働く人の子育てを支える制度になるまでだが、共働きで夫妻が交代で育休を取る場合は1歳2カ月まで受け取れる。給付額には上限があり、最初の半年間は月約28万円、それ以降は月約21万円になる。

厚生労働省によると、給付を受けた人は2004年度の約11万人(うち男性512人)から14年度には約27万人(同5473人)に。12年10月からの1年

間に子どもが生まれた家庭で、14年10月までに育休を取り始めた人の割合は、女性の86・6%に対し、男性は2・3%にとどまる。20年までに男性の育休取得率13%という政府の目標とは隔たりが大きい。

男性の育休について、特定社会保険労務士の新田香織さんは「半年や1年間職場を離れるのが難しいと感じる人は、短期間でもいいので検討してほしい」と話す。男性が取る場合、新田さんは「産後8週間や、妻が育休から職場復帰する時期がオススメです」と提案する。



あるで眠り隔てなく聞レビの音、メと閉まと思つ聞をめうとしーゴーきた。は眠りまた袋らしと聞こ音の後とかむがお菓思い、